

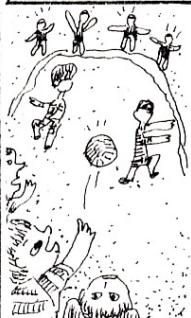
日本には「敬老の日」という立派な記念日があるが、もともと兵庫県のある村の村長と助役が「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」という発想から農閑期に「としよりの日」という日を設定したもののが全国に拡がったのだという。今ではすっかり形骸化してただ祝日だと、祖父母にプレゼントをする日のよ

社說

知恵心を共有し
街と共に生きる

うな認識でいる場合も多い。本来の目的である「知恵を借りて村作り」という部分が消えてしまっているのだ。

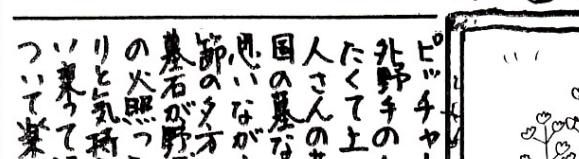
なく、日頃から思へ出
話や知識に耳を傾け、
その個人的な歴史体験
の中から、これからは
我々がどのように生き
て行けば良いのか
のヒントをつかむ
事こそが正しい意味
での敬者なのだ
ろう。西成での地
道な試みである「な
るへそ新聞」が暮らし
中で昔の話を聞いてい
くことを日常化し、一
緒に街を生きる事が出
来ればと願つてゐる。



本紙でハ文字格言を連載する秋葉さん。小学校三年のころ、凍てつぶ北海道の石狩川で、前かけ一枚姿で土を運び出す建設現場の労働者を目の当たりにし、社会の真実を知る。人生を左右する出来事となつた。翌年より俳句を始め、早朝四時からハ時にかけて、新聞の切り抜きとテラシ裏に詠む俳句は毎日欠かさない。ただし現在阪神三連敗中で「ハンセンズイ」の百一歳。

異人の墓で夕涼み

野球小僧の夏の樂しみ



の長野君や
し、ケ裏105年
が少し丸い異
墨が、どこの
のが不思議に
らも、暑い季
に水を冷えで
琳としてあと
た頬にひんや
ちがよく、つ
る墓石に抱き
している

人、これまで
芸の神社に
（永岡芳輔）
秋葉忠
百年目

又大眾讀
かなどと思
太郎の新連載 河原直
（河原直）
太郎の新連載
（河原直）



飛田一市（かすし）
さん（69）は商店街で40
年以上呉服屋を営んで
きた。昨今人通りが減つ
て若い人も着物を着なくな
つた。このままだと家業も先細りになる

が、先が細くなるのは
針だけでいいと、この
度作務衣（さむえ）を
専門にした商売を思い
ついた。作務衣は下が
ズボンだ。奥さんから
和裁を習い覚えた器用
な飛田さんは、早速、
ズボンを解体して自分
で型紙を作り上げミシ

ノも器用に操る。山形から二十歳の時に大阪へ来て以来、古着問屋で働いて着物地の知識を身につけた。同所で奥さんと知り合い、5年後結婚を機に独立して現在の「小福屋」を開いた。奉公先が「大福屋」なのでそれより控えめな名前にしたと。いう。おふくやと読むが皆がこふくやと呼ぶのでそれも受け入れていい。1点毎が2つと無いオリジナルになる。新たな挑戦に意欲を燃やす飛田さんである。

少年の日常

A portrait of Kōki Tōgō, a Japanese naval officer and statesman. He is shown from the chest up, wearing a traditional courtly cap (fukinuki yūsho) and a dark robe. He has a prominent mustache and is looking slightly to his left.

新開筋商店街にある衣料雑貨店が、先ごろ淡路島の五色町から可愛らしいお嬢さんを迎えた。このたびの慶事は瀬戸内海で獲れたタコが結んだ縁だという。戦中戦後は疎開や買い出しで大阪から淡路島へ渡る人も多く、新婦の父下野勝郎さんはそのよつな人たちを厚くもてなした。あるとき獲れたばかりのタコを差し入れたところ、こ

A black and white illustration of a woman with a very large head and a small body, wearing a traditional kimono and holding a fan. She is looking towards the right. The background shows some foliage and a building.

オーストリア記
文化

山王には大衆演芸場がある。昭和年代後期のまさに漫芸風様の地にふさわしい所もある。演題は「快福劇」「博多人形」「女形芝居」「意知悪婆さん」。そして拉致を題材とした「拉致母手墨」等。特筆すべきは「意知悪婆さん」人として有名な、下達ものとはいえ現代にもマッチするエピソードを交えた巧妙な芝居であり、娘と娘のペロソスは見事である。加えて劇中の姑の役者浜田ひろしの奮闘振りを表現する時のタオルを固く巻き、一気にハチマキにする時の鮮やかさ、さすが幼い時から鍛えられた猿看魂そのものの仕草である。妻は姑嫁に何を訴えてくるのか観る人に考えさせる妙がある。そして「女形芝居」これも圧巻である。衣裳といい化粧といい又扇子の「ほん」と上手く操ること。そして身の熱湯がいいだが、「ほん」と